

2018年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
06010101

1. 計画名称

茅野市行政経営基本計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	住民自治の分野では、パートナーシップのまちづくりの振り返りを行い、新たな市民活動の創出についても数値を伸ばすことができた。政策運営の分野では、計画年度当初において53.7%の施策で改善が見られたが、職員数の減少や新たな民間活力の導入にはいたらなかった。財政運営の分野では、公共施設の累計面積の縮小や市税の収納率改善などの数字の改善が見られたが、令和元年度予算では、財政調整基金からの繰り入れを見込んだ予算編成となった。情報発信の分野では、インターネット動画番組・公式フェイスブック・インスタグラムの開設、公式ホームページのリニューアルなどこれからの情報発信のための仕組みをつくることができたが、インターネット動画番組やSNSの周知が不足していた。
今後の重点化施策番号	2	説明	持続可能な行政経営を進めるためには、収支均衡の財政運営を欠かすことができません。そのためには、既存事業の見直しや施策の重点化等を行う必要があります。そこで、令和元年度の重点化施策は、「効率的・効果的な行政経営の推進」とし、全事業の棚卸を行い、事業の見直しや統廃合、民間委託等の検討を行います。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	協働のまちづくりによる住民自治の実現	おおむね順調	ゆいわく茅野における相談事業や講座開催等により、地域課題に気づき、協働し、実践に取り組む、住民の自主的・主体的な活動が芽生えてきている。また、地域コミュニティにおいても各地区独自の事業が始まってきており、地域の活性化に向けて、順調に取り組まれている。	持続可能なまちづくりを進めるには、あらゆる主体による協働が大切になってくる。しかし、その意識を持つ活動者はまだ少ない。あらゆる主体同士がつながりを築くための関係づくりをいかに進めるかが課題である。また、地域コミュニティの活動拠点である地区CC職員にはコーディネート力の向上が求められる。	ゆいわく運営委員会での評価も参考に、市民活動のニーズに合わせた講座やイベントを開催し、各々が主体的、自主的に活動する団体(者)となるよう支援を行う。また、ファシリテーション研修等を行い、地区CC職員の能力向上を図るとともに、ゆいわくとの連携を強化していく。
2	効率的・効果的な行政経営の推進	おおむね順調	第5次総合計画に位置付けた主要事務事業については、概ね実施されている。また、第5次総合計画の進行管理に向け、行政評価の仕組みを見直した。	法令や規約、条例等で定められ、経常的に行う必要がある事務が多く、財源の確保や職員数の減少という視点において大きな課題となっている。	現在、市で行っている全業務について、必要性や有効性からの見直し、民間活力の導入の可能性、業務のやり方の見直しといった観点からチェックし、業務の統廃合や民間委託等を検討する必要がある。
3	持続可能な財政の確立	おおむね順調	老朽化し、利用頻度が少なかった永明寺山公園墓地内の公衆トイレを撤去したことにより、公共施設累計面積を減少することができた。また、滞納繰越分の徴収強化を図ったことにより、収納率を改善することができた。	将来負担比率は減少したものの、想定外のエアコン設置や大型事業が今後予定されており、今後将来負担比率が上昇することが見込まれる。	10年間の財政計画を毎年度見直しする中で、財政規模に応じた事業の選択と集中を行い、収支均衡の財政に努める。
4	戦略的な情報発信・市民の声の反映と情報共有	おおむね順調	①インターネット動画番組の配信を開始した。 ②公式フェイスブック、インスタグラムの各ページを開設した。 ③平成31年度4月の公式ホームページのリニューアルに合わせ、オープンデータ公開の準備を進めた。 ④まちづくり懇談会の10地区以外の会場を変更して開催した。	①再生回数の多い動画がある一方で、極端に低いものもある。 ②市民のフォロワーが多く、市外への情報拡散が希薄である。 ④まちづくり懇談会参加者は、地区内諸役等からの動員による傾向がある。若年層の割合が低い。	①企画・内容の精査を行い、認知向上を図る。フェイスブック、インスタグラム、ホームページから誘導を図る。 ②フェイスブックのターゲティング機能を活用し、市外のユーザーに向けた広告宣伝を行う。 ④特に参加の少ない若者が関心を持つようなテーマと、人が集まりやすい会場を設定し、SNSによる情報発信を行う。

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称		<ul style="list-style-type: none"> ・住民から様々な形で意見を吸い上げ、それを施策へ反映させることが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり懇談会、市長への手紙・メール、地区運営協議会や区長会等との意見交換など様々な手法で意見を把握していく。
開催回数	2		
参加延べ人数	16	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては、今後対応していくのか。 ・「2効率的・効果的な行政経営の推進」の施策を今後の重点化施策とすることについては良い。財政運営の所で持続可能性を担保しなければならないので、そのために令和元年度実施する全業務の棚卸は重要なこと。 ・棚卸から実施していくことは良いが、世の中の動きが早い中で、縮小だけではなく、次のビジョンを明確にしなければならない。 ・安定的な行政経営においては、財政運営が最も重要ではないか。 ・インターネット動画配信で収益を上げることを考えてはどうか。 ・SNSなどのアクセス目標を設定してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各計画の改定に合わせて、考え方を取り込むことを検討していく。 ・業務の棚卸により、事業の見直しや統廃合、民間委託等の検討を行い、職員数についても見直しを行いたい。 ・棚卸による見直し等の結果を、今井市長の新しい政策のための財源に振り向けていきたい。 ・持続可能な行政経営を進めるためにあたり、安定的な財政運営を行うために、令和元年度に業務の棚卸を行う。 ・まずはアクセス数を増加させることに注力し、アクセス数が増えた段階で広告掲載を募るなど、収益を上げる方法を検討する。 ・指標を設定したい。